

# トラック輸送情報（平成16年11月分）

平成17年 2月10日  
 国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
 担当：高橋、荒木 内線28315  
 直通：03-5253-8342  
 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

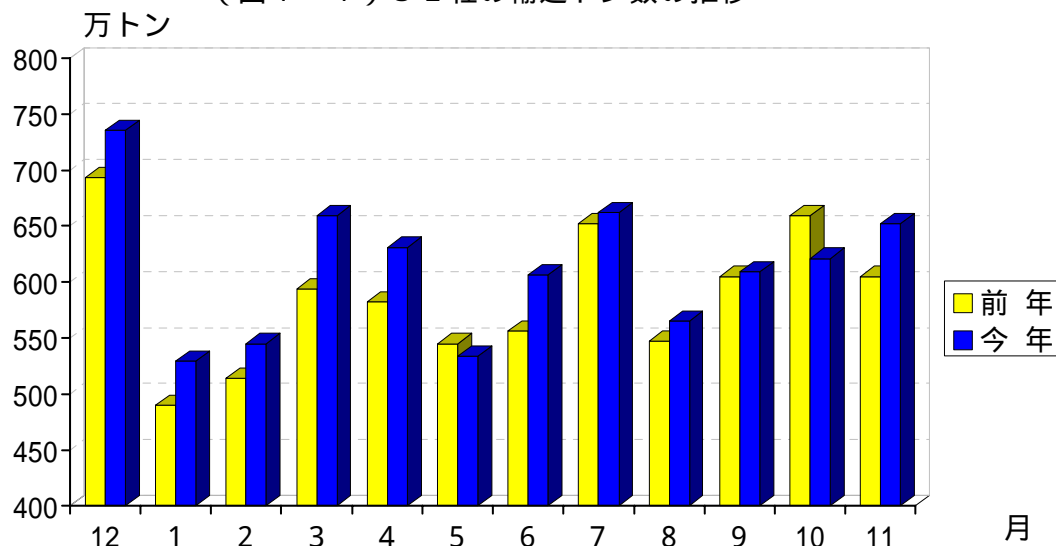
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,518,803トンで、前月と比べ、総輸送量が約31万トン増加したため、前月比105.0%（季節調整済み103.1%）、前年同月と比べると、約47万トン増加したため、前年同月比107.7%の実績であった。

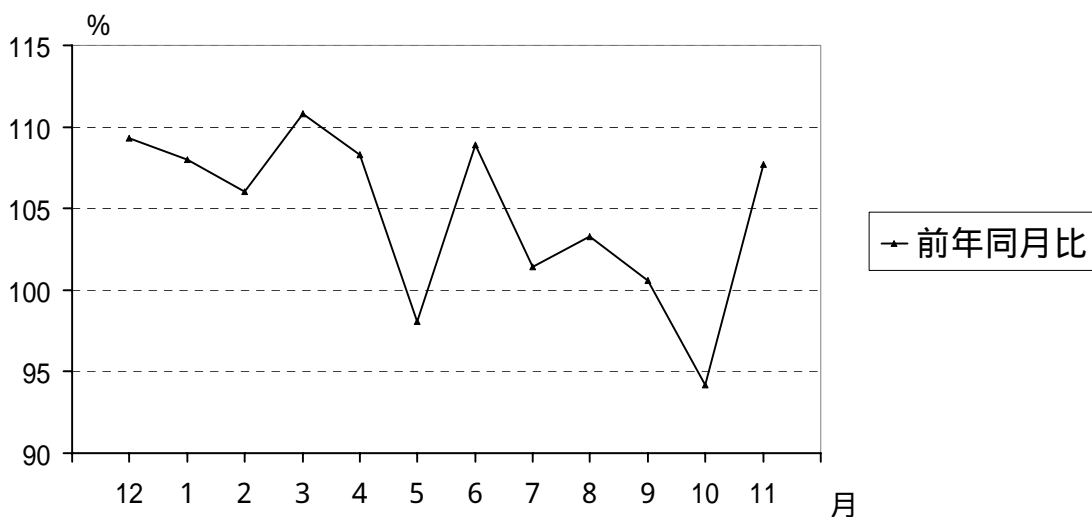
なお、平均稼働日数は、23.8日で、前月と比べ、0.5日の減少、前年同月と比べると、1.0日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、273,899トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比107.2%、前年同月と比べると、約9千トン増加したため、前年同月比103.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



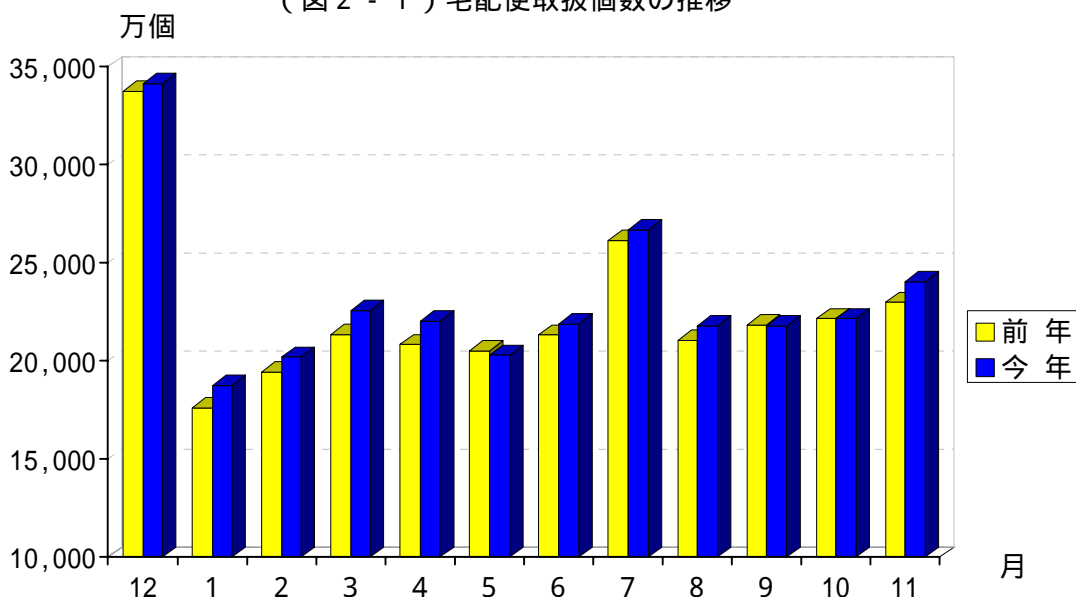
（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比



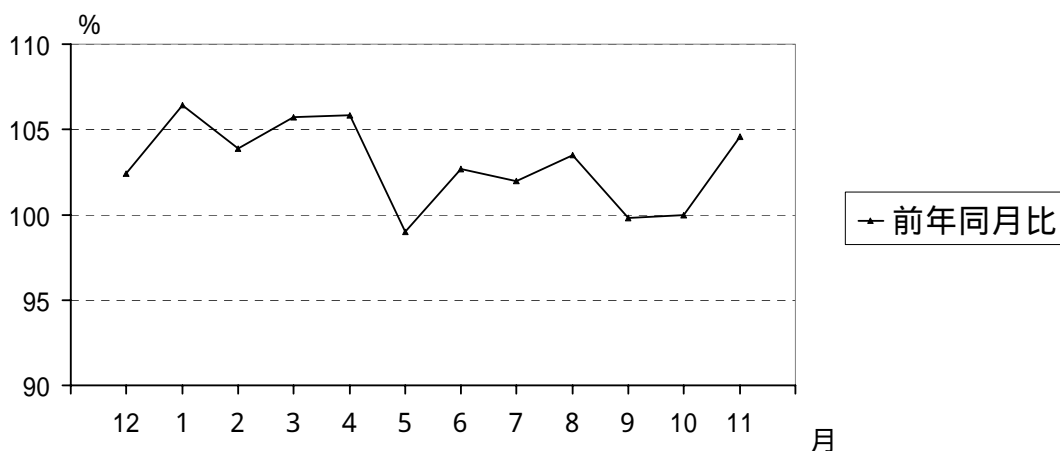
## ( 2 ) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、240,579千個で、前月と比べ、約 1,899万個増加したため、前月比 108.6% (季節調整済み 102.1%)、前年同月と比べると、約 1,067万個増加したため、前年同月比 104.6%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2 参照)

( 図 2 - 1 ) 宅配便取扱個数の推移



( 図 2 - 2 ) 宅配便取扱個数の前年同月比



## ( 3 ) 品目別及び地域別輸送状況 (表1 参照)

前月と比べると、全体的に輸送量の増加がみられた。主な理由としてほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増、ならびに季節的需要増を主な理由としている。農水産品は、先月に引き続き収穫期による貨物増があった。地域的には、農水産品以外の品目においては関東、中部、近畿地区を中心に輸送の増加が見られ、農水産品は中国、九州で増加がみられ、東北で減少がみられた。また、新潟県中越地震による緊急物資の輸送も見られた。

前年同月と比べると、稼働日数が増加していることにより、全体的に輸送量は増加している。理由としては、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。地域的には農水産品以外の品目において関東、北陸信越、中部、近畿地区を中心に増加がみられ、農水産品は東北、北海道で増加し、中国、九州では減少がみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品	1	5	10	1	野菜、果物	中国、九州	4,8	
						野菜、果物	東北、関東	8	
	金属製品		7	18	1	建築用金属製品、その他の金属製品	東京、関東、愛知、大阪ほか	4,8	
	機械	1	5	19	2	機械部品	関東、東京、北陸信越	4	
						機械部品	北陸信越、愛知、中部、近畿	4	
	化学工業品		8	18	2	その他の化学工業品、塗料、化学薬品	東京、神奈川、関東、大阪、中国ほか	4,7,8	
						その他の化学工業品	神奈川	4	
	繊維工業品		4	22	2	繊維、糸	東京、神奈川、関東、愛知、大阪、兵庫	8	
						繊維	中部	4	
食料工業品		14	12	1	加工食品、飲料	神奈川、関東、東京、北陸信越、愛知、大阪、兵庫、中国ほか	4,7,8		
日用品	1	11	16		書籍、カタログ、文具、娯楽用品	近畿、神奈川、大阪ほか	4,5,7,8,10		
その他	1	9	16	1	百貨店配送品、宅配貨物、緊急物資	神奈川、北陸信越、愛知、大阪、全国ほか	2,4,8,10		
前年同月に比べて	農水産品		5	10	2	野菜、果物	東北、関東、北海道	4,8	
						野菜、果物	中国、福岡、九州	4	
	金属製品		7	17	2	その他の金属製品	東京、神奈川、関東、北陸信越、大阪	4	
	機械		6	19	1	1	その他の機械	愛知、兵庫、近畿	4
	化学工業品		11	13	4	塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、北陸信越、大阪、中国ほか	1,4,7	
						合成樹脂	神奈川、北陸信越	4	
	繊維工業品		4	21	3	繊維	東京、神奈川、関東、北陸信越、大阪、兵庫	4,9	
						繊維	神奈川、北陸信越、中部	4	
	食料工業品		11	12	3	1	加工食品、飲料	東京、関東、神奈川、愛知ほか	5,7
					加工食品	神奈川、北陸信越、福岡	4		
日用品	1	10	14	1	その他の日用品、文具、書籍	北海道、東北、東京、神奈川、愛知、近畿、全国	4,5,9		
その他	2	7	15	3	百貨店配送品、宅配貨物	大阪、兵庫、近畿、全国ほか	1,4,7,9		
					百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、関東、北陸信越	4		

(注) 「主な増減地域」については、16地域(全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)単位)である。

増減要因	1.新規荷主獲得(荷主契約解除)	6.倉庫へ入る貨物増(減)
	2.デパート・スーパーの貨物増(減)	7.倉庫から出る貨物増(減)
	3.他機関から貨物が来た(へ流れた)	8.季節的需要増(減)
	4.工場・生産地からの貨物増(減)	9.景気の好況(不況)
	5.商社・問屋からの貨物増(減)	10.その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 841社 / 調査対象事業者数 1,078社）の輸送量は、前年同月比 103.9%、前月比 100.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	103.9%	102.4%	101.2%	104.2%	103.6%	105.5%	104.7%	112.1%	101.5%	105.9%	105.7%
前 月 比	100.3%	94.8%	98.9%	101.2%	102.6%	104.0%	101.6%	105.7%	102.5%	103.4%	102.6%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、一部の地域を除いて各種工事の終了に伴い、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が減少した。また、農産物関係の収穫期を終えたことによる輸送の減少が見られたことから、全体では対前月比94.8%と減少した。一方、対前年同月比をみると102.4%であった。今後の見通しは、年末繁忙期を迎えることから需要増を期待するも、事業者の間では減少傾向と見通しを立てている。</p>
東北	<p>本月の輸送は、「食料工業品」「日用品」は季節的需要による増加が目立ったが、「穀物」は出荷需要がピークを過ぎたため減少となった。このため、対前月比は98.9%となった、また、対前年同月比は101.2%であった。今後の輸送見通しは、次月は年末年始の出荷需要増加が見込まれるが、以降はやや減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、季節的需要により「その他の石油製品」「食料工業品」が増加した。また、新潟県中越地震の発生に伴う「金属製品（仮設住宅部材）」の需要増加も見られ、対前月比は101.2%、対前年同月比は104.2%とともに増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、特に新潟県内の事業者では、新潟県中越地震に伴う復旧作業のため必要な「木材」「鉄鋼」「機械」「窯業品」などの品目の増加があった反面、被災地域荷主の本来の企業活動等停滞と思われる減少も多く見られた。一方、他県の事業者については、一部事業者が緊急物資の輸送を行っているが、全体から見た輸送量はわずかであり、大方の事業者については、地震の影響はほとんどない。また、関東方面からの輸送ルートについては、大方復旧したことにより、物資の流れがよりスムーズとなった。そのため管内全体としては、対前月比は102.6%、対前年同月比103.6%とともにプラスとなっている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比は104.0%、対前年同月比は105.5%とともに増加となった。おもな増加品目では工場・生産地等からの出荷増により「機械」、季節的需要により「金属製品」、建設関係により「セメント」、その他で「その他窯業品」であった。また、主な減少品目では、季節的需要により「水産品」「木材」「食料工業品」が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともやや減少傾向にあるとみられる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、建機重機の需要増でメーカーからの輸送依頼増加により「機械」が、海苔の出荷に伴う「輸送用容器（パッキングケース）」、水害関係や年末に向けての出荷に伴う「日用品」の増加が目立ったため、対前月比101.6%、対前年同月比104.7%となった。今後の見通しは、年末繁忙期の百貨店貨物の需要が見込めるが、次月は横ばい、以降は減少傾向にあるものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比105.7%、対前年同月比112.1%とともに増加している。特に建設関係の輸送が増えており、「砂利・砂・石材」の増加が著しく、「セメント」「木材」も増加した。「その他の石油製品」の輸送も増えているが、暖冬の影響もあり、大きな増加となっていない。今後の見通しは次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と控えめな予想である。</p>
四国	<p>今月の輸送は、対前年比102.5%、対前年同月比101.5%と増加した。いまだに天候（雨天）の影響により「野菜・果物」「木材」「食料工業品」に減少が見られる一方、収穫期により「野菜・果物（みかん）」「その他農産品（花き）」が増加した。また、季節的需要や工場等からの出入庫により「食料工業品」「取り合わせ品」「日用品」「セメント」等の輸送量増加が見られた。今後の輸送傾向の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいである。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前年比103.4%、対前年同月比105.9%と増加した。品目別では、道路工事や建設工事による需要が高まったことを主な要因として「機械」「セメント」「廃棄物」の輸送増が目立っている。「野菜・果物」については出荷時期を迎えた作物（さつまいも等）を中心に輸送量の増加が見られた一方、台風の被害により収穫量が減少した作物や出荷時期が終了した作物では輸送量が減少した。今後の輸送の動向としては、年末に向けて増加するとの傾向であるが、それ以降は減少するとの見通しである。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「その他の農産品（葉たばこ）」が出荷時期の終了により、また、「食料工業品（飲料）」の需要減により輸送が減少したが、「その他の農産品（菊）」の季節的需要による増加や、「その他の製造工業品（内装関連資材）」の一時的な輸送増が見られたことから、対前月比102.6%、対前年同月比では105.7%と増加した。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
	減	2	5	0	1	0	0	1	0	1	0	10
2. 野菜・果物	増	1	4	2	1	0	0	0	2	5	0	15
	減	3	2	1	2	0	0	0	2	4	0	14
3. その他の農産品	増	2	0	0	1	0	0	0	2	3	1	9
	減	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
4. 畜産品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	4
5. 水産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	減	1	1	0	0	1	0	0	0	3	0	6
6. 木材	増	0	0	1	1	0	0	3	0	2	0	7
	減	3	1	0	0	1	0	0	1	2	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	7	1	0	2	0	0	9	0	2	0	21
	減	11	0	0	3	0	0	0	0	0	0	14
11. 工業用非金属鉱物	増	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	5
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	4
12. 鉄鋼	増	0	2	0	2	0	1	1	1	1	0	8
	減	2	2	1	1	0	1	1	0	0	0	8
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
14. 金属製品	増	0	1	2	1	1	1	1	0	3	0	10
	減	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	5
15. 機械	増	1	0	3	3	2	2	1	1	5	0	18
	減	1	1	1	1	0	2	0	0	2	0	8
16. セメント	増	2	1	0	2	1	1	3	2	4	0	16
	減	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4
17. その他の窯業品	増	2	0	0	2	1	1	0	1	2	0	9
	減	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4

品目	運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
					越							
18. 揮 発 油	増	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
19. その他の石油製品	増	0	1	2	1	0	0	3	0	1	0	8
	減	2	0	0	3	0	0	1	0	0	0	6
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化 学 薬 品	増	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
	減	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	4
22. 化 学 肥 料	増	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
	減	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	5
	減	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
24. 紙 ・ パ ル プ	増	2	1	2	0	0	1	1	0	1	1	9
	減	3	1	0	0	0	0	1	2	3	0	10
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食 料 工 業 品	増	1	8	2	0	0	1	1	3	2	0	18
	減	3	3	0	2	1	1	0	2	2	2	16
27. 日 用 品	増	0	3	0	1	0	3	0	2	2	0	11
	減	0	1	1	0	0	1	0	0	6	0	9
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	5
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
29. 金 属 く ず	増	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	0	2	1	0	0	0	2	1	2	0	8
	減	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	4
32. 廃 棄 物	増	0	1	1	1	0	0	0	2	6	0	11
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33. 輸 送 用 容 器	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取 り 合 せ 品	増	0	1	0	1	0	0	0	2	3	0	7
	減	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
35. そ の 他	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0